

和歌山大学協働教育センター クリエプロジェクト
<2019 年度ミッション成果報告書>

プロジェクト名：天野地域活性化プロジェクト

ミッション名：天野地域活性化プロジェクト

ミッションメンバー：経済学部 2 年生 松崎一統志

経済学部 2 年生 新山将平

経済学部 2 年生 西岡陽

他 36 名

キーワード：他大学連携・かつらぎ町天野・地域活性化・社会教育・生涯学習

1. 背景と目的

背景と経緯は、教育学部で社会教育、生涯学習を学んでいた学生がその考えを多くの学生で実践的に学び、考えていきたいという思いから団体を設立し、かかわりのあったかつらぎ町天野地域をフィールドに活動を始めた。天野地域では、当時小学校統廃合問題を経て廃校になった天野小学校をどうにか地域内外の交流の場として残していこうと地域全体で運動していた。そのような地域の団結力や課題解決に向かう家庭から学生が学び、地域とともに新しい価値を見出せると考えていた。天野地域は自然豊かで深い歴史もあるが、生産人口に対する高齢者・年少者の割合が70%を超えており、超の付くほどの高齢化地域となっていた。そんな中で当初は地域活性化を掲げ学生が天野地域に入っていた。

目的としては地域で活動する意味を考えながら継続的活動を実施する中で地域と学生にどのような考えや関係性が生まれ、それが活動にどう生かされるのかを検証する。また、地域外から地域に入っていくものとして地域をどのようにとらえ、地域に何をフィードバックできるかも考えていく。さらに和歌山大学の4学部の学生だけでなく、信愛女子短期大学や和歌山県立医科大学の学生とも活動を共にすることで様々な側面から地域をとらえ、活動に生かしていけると考えている。

今年度は主に地域の子どもたちとの交流とのコミュニケーションを糸口に、地域全体の交流に生かしていくことに注力した。

2. 活動内容

かつらぎ町かつらぎ町の天野地域に訪れて、蛍鑑賞や秋祭りなどのイベントへ参加するだけでなく、子どもたちや保護者の方々協力の下、肝試しやハロウィン仮装、落ち葉を用いた焼き芋作り、宝探しゲームといったフィールドワークなどを企画し、地域全体を巻き込んだ活動を展開する。また、地域活動を深く知るため活動範囲を和歌山全域に広げ、新宮市でユネスコの「平和について考える会」に参加、

串本市ではエルトゥール号事件を調査する中で日土関係の友好の歴史とその趨勢を学んだ。

以下は今年度の年間歴である。

- 3月 串本市の歴史を学ぶ会に参加
- 5月 合宿研究の準備（イベント企画・日程調整・天野地域についての事前学習）
- 6月 天野地域でのホテル観賞会に参加
合宿研究の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 7月 天野子供会との夏キャンプ合宿
- 8月 新宮市の平和について考える会に参加
- 10月 合宿研究の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 11月 天野秋祭り合宿
- 1月 2019年度活動報告会



あ



↑天野地域の子どもたちとの交流の様子

3. 活動の成果や学んだこと

今年度は和歌山県に新設された和歌山信愛大学の学生 20 名程度が参加し、より多くの子どもたちが学生とかかわることができ、子供たちの興味のあることやしてみたいことをより多く実現することができるようになった。学生からの「ハロウィーンにちなん

だイベントやりたい」という声から天野地域の住民の方々に協力してもらい天野をフィールドにしたハロウィーンが企画された。学生たちがハロウィーンの準備において住民と関わるにつれて天野地域の歴史や魅力を発見していった。また、「流しそうめんがしたい!」という子どもたちの声に学生が働きかけ、住民の方々に協力してもらい流しそうめんを天野の竹をつかっておこなった。また、天野の竹が竹パウダーとしてぬか床に使われているという話をはじめ聞いて、その商品をもっとPRしたいと思う学生もあらわれたのである。

このように学生が主体的に活動し、天野地域に関わっていくなかで学生たちが興味をもったことを実現できるというのが、活動の醍醐味である。また、各イベントに必ず振り返りをおこなっており、「周りになじめていない子供がいる…」や「天野地域の良さを知ってもらうにはどうすればいいのか…」などの声にみんなで考え活動を楽しかったというだけにとどまらずに次の活動にもつなげていけるような取り組みを行っている。

4. 今後の展開

4年目の活動ともなると、地域と学生間でのマンネリ化が起こりかねない。2020年度の活動では翌年以降を見据えた活動サイクルを確立し、「恒例のイベント」と「新しいイベント」の2種類の活動を実行していきたい。また恒例のイベントを企画する場合も、毎年実施するアンケートをもとにより良いイベントにするために尽力したい。

また地域の既存の行事に多く参加し、設営や企画に参加ことによって高齢の方・子供たちとの結び付きをさらに強めていきたい。

以下は2020年度の活動計画である。

- 4月 わかまなび総会（年間歴発表・意思統一・役職発表）
- 5月 活動の準備（合宿研究の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 6月 天野地域でのホテル観賞会（一泊二日）
- 7月 活動の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 8月 夏祭りイベント
- 9月 活動の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 10月 天野地域運動会に参加
活動の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 11月 秋祭りイベント
活動の準備（イベント企画・日程調整・制作）
- 12月 天野地域クリスマス会に参加
- 1月 天野地域にて年間研究報告会

5. まとめ

今年度のわかまなびは所属学生数が爆発的に増え、大きく成長した。子どもたちとのコミュニケーションを通して学びを深めていくことを意識した今年度の活動においては、天野地域を訪れて蛍鑑賞や秋祭りなどのイベントへ参加するだけでなく、子どもたちの保護者の方々協力の下、「子どもたちがしてみたいこと」を地域全体で実行できたと言えるだろう。また、教育学を専攻する学生が増加したため、活動中のレクリエーションの質や子どもたちの安全に対する意識が飛躍的に向上した。他にも、活動後の地域の方々へのアンケートや学生自身の振り返りを徹底したことにより、自分たちの活動をより客観的に見返し、時点での活動に生かすことができたということも来年度につながる好材料であろう。

来年度ではより円滑に活動を進めるために、2年目にあたる学生たちに対し、より中核的な役割（地域へのアポイントメント・ミーティングでの司会進行等）を任せる方針である。わかまなびの所属学生全員が地域の人々に認知してもらい、各々にとって実りのある活動ができる年にしていきたい。

※天野地域の方々のプライバシー保護の観点から、一部画像を加工しています。